

藤六石 藤六石 儒者。文政六年十一月一日下野國宇都宮生れ、明治十年十一月十日歿（八十三）。舊姓安形、諱信綱、字敬止、通稱駒之進、眞紀（記）、白田大作。別號在田、東洲。別家して縣姓を稱す。江戸に出て大橋訥菴、佐藤一齋、清水赤城等の師事、また千葉周作の劍法を學び、禪道を修め、伊豆で學塾を開くなどした。のち歸藩して藩の中心（家老）となり國事を奔走。維新後は司法省判事等を歴任。辭して郷里で閑居。書畫を能くし、詩歌にも秀れた。

一方蒲生君平の遺志を繼いで山梨修復事業を運白、藩を擧げて事い當るなどのことありた。『蒲生君平遺稿』全三冊（明治十一年九月版）権免許、板木・佐野靜雄出版、鏡池書屋發行）を編纂刊行。